

放課後等デイサービス自己評価表【保護者様用 集計結果(令和5年)】

公表: 令和6年2月20日 アンケート期間: 令和5年12月19日～令和6年1月9日

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制整備	1	子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	6				
	2	職員の配置数や専門性は適切であるか	4	2			
	3	事業所の設備等は、スロープや手すりの設置などバリアフリー化の配置が適切になされているか	4	2		*未確認	令和6年度緊急対応マニュアルに付記させていただきます。
適切な 支援の 提供	4	子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、 ①放課後等デイサービス計画 が作成されているか	5			○計画書がとてもわかりやすい。	アセスメントの折りに、多くの保護者さまから具体的なお話をいただくことができ、計画書もまた具体的に仕上げるすることができます。いつもご協力をいただき、どうもありがとうございます。
	5	②活動プログラム が固定しないよう工夫されているか	6			○工夫が見られ、とても楽しんでいる。	事前の「集団支援計画予定表」をもとに支援を進めています。さらに、折々の活動の様子から、その後の支援内容を検討。よりお子さま方や事業所の実態に合った支援を進めています。よりよい支援内容に向けて、毎回の利用記録をご高覧いただき、ご意見やご感想をいただけたら幸いです。
	6	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	1	2	3	*コロナなので承知しています。 *未確認	アセスメントの折りなどに、ときおり保護者のご希望を聞いていますが、他機関との交流を望む声は今のところ、聞かれません。今後も同様のお問い合わせを継続しながら、保護者のお声を大切にしていまいります。
	7	支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	6				
	8	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	6				
	9	保護者に対しての面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	4	2			

保護者への説明責任等	10	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか		1	5	コロナなので承知しています。	今のところ、開催予定はありませんが、ご希望の保護者がみえればご遠慮なく、お声かけいただけたら
	11	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申し入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか		6			
	12	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか		6			
	13	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか		6			
	14	個人情報の取扱いに十分注意しているか	3	2	1	△他のお友だちの名前の入った裏紙を何度か見えています。	
非常時等の対応	15	緊急対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルなどを策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか	2	2	2	主に「週末利用」なのでわかりません。	利用者様には「月1回」の「SST(避難訓練)」で、災害への意識向上と迅速な行動を支援しています。その様子はその都度「連絡帳」で報告させていただいておりますが、懸念の声もいただいております。今後は定期的に「保護者向け公文書」を提供させていただきます。
	16	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	2	2	2	○毎回楽しみにしています。 *主に「週末利用」なのでわかりません。	「災害は忘れたころにやってくる」を合言葉に、職員は折りに触れ、研修等で「非常災害時」の支援のあり方を交流しています。「集団支援」の際は、「反復内容」とともに、少しずつバージョンアップして、施設としての防災意識の向上に努めています。
満足度	17	子どもは通所を楽しみにしているか	6			○活動内容により、意欲にムラがあるが、お出かけ行事や料理、お買い物体験などの興味のある活動を楽しみにしている。最近「みかん狩り」「トヨタ博物館」に行けて、とてもうれしかったようです。	変化に富む「施設外活動」への根強い人気に応え、行き先を少しずつ広げてきましたが、その多くが保護者様のさらなるご支持をいただいております。さらに、「施設内」においても、より多くの魅力ある支援や活動ができるように、職員の研修を進めてまいります。
	18	事業所の支援に満足しているか	6			○毎日の支援内容が固定化されておらず、いろいろなことを経験できるので満足している。休日はお出かけ行事が多く、自然の中で遊んだり、大きな公園で思い切り遊んでいる姿も日々の活動記録からわかり、うれしい。	個々のニーズに沿った「個別支援」、支援内容はもちろん、集団の中の一員としてのルールやマナーの定着も図っていく「集団支援」。そのどちらも、多様な個性が集う施設内では試行錯誤の連続ですが、保護者の方々のご意見とご理解もいただきながら、今後とも微力を尽くしてまいります。

① 放課後等デイサービスを利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のこと。放課後等デイサービス事業所の児童発達支援管理責任者が作成する。

② 事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のこと。子どもの障害の特性や課題、平日/休日/長期休暇の別等に応じて柔軟に組み合わせて実施されることが想定されている。

放課後等デイサービス自己評価表【事業者用 集計結果】

公表:令和6年2月20日 アンケート期間:令和5年12月19日~令和6年1月9日

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	現在の課題
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	11	1		適切である。折々の状況により、支援内容に合わせ、スペースを計画的に活用していけば、支援の流れもさらにスムーズになると考える。病気や怪我等の際は、個室を適宜活用しているが、職員間でその使用判断に違いが出るがあるので、管理の流れを今一度確認したい。
	2	職員の配置数は適切であるか	10	1	1	「欠勤職員」「当日利用者」の増減で、時間帯により、現場が厳しくなる場合はあるが、配置数は適切である。日常の支援内容の見直しや、各職員の能力や資質の向上を図り、臨機応変な対応に備えたい。 △少ない時、多い時の差が激しい。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配置が適切になされているか	9	3		フロアはバリアフリー化されており、転倒防止のための「マット敷設空間」も確保。一方、教室間の自由な行き来、テンションの上がりすぎた利用者による過度な移動がときおり見られるので、利用者には各部屋の適切な使い方を随時教えている。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	7	5		月によっては、職員が一堂に会してミーティングを実施することが難しいことがあった。各職員の「支援者」としての基本的資質を伸ばし、「支援内容」の充実を図るために、「集団支援企画書」による支援目標、支援内容の共通理解を図ってきたが、十分に活用できているとはいえず、「PDCAサイクル」定着にはまだまだ課題がある。 ○定期的にミーティングしている。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	5	7		「一斉アンケート」を実施したことはないが、「モニタリング」から「個別支援計画作成」までの過程を充実させ、個々の利用者と保護者の意向に最大限配慮した個別支援計画に落とし込んでいる。三度目の試みとなった「本評価表」では、保護者の声もより具体的に届いており、その期待に応えられるように、今後の支援の方向、事業所のありようを検討したい。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	6	3	3	保護者用、事業所用ともに集計が終わり次第、事業所の意向を明確にして、毎年「こぼんはうす本部HP」において公開している。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	7	4	1	開所から3年が過ぎ、日々の支援の流れが定着した今こそ、その成果と課題を客観的に評価すべき時期にあると感じる。各職員の見識をもとに、具体的な事実に基づく「内部評価」はもちろん、識者も交えた「外部評価」も必要であり、委託すべき外部機関を早急に探りたい。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	5	6	1	十分とはいえない。研修の有無にかかわらず、児童官より月2回の「研修資料」を提案。全職員に回覧し、「支援者としての基本的資質」「支援内容の基礎基本」にかかわる提案を実施している。「事例研究会」などの実践的なフィードバックは今後の最大の課題である。
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	9	3		アセスメントでは、多くの保護者から具体的なお話をいただいている。施設内における利用者の様子も共感的に受け止められ、真摯なご意見やご質問をいただくことが多い。ほとんどの保護者に「継続利用」をいただいております。アセスメントのたびに、保護者と施設とのニーズが合致することも少なくない。今後も個々のストレングスへのアプローチを第一に、より多くのニーズを引き出せる支援を工夫したい。
	10	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	9	3		「特性確認シートⅠ(社会性)」「特性確認シートⅡ(コミュニケーション)」「特性確認シートⅢ(想像力&感覚)」をアセスメントツールとして使用。個々の特性を分析するとともに、多くの利用者の持つ特性を客観的に分析。個別支援はもちろん、集団支援にも活用している。

適切な支援の提供	11	活動プログラムの立案をチームで行っているか	9	3	月末に管理者の指導の下、翌月の「集団支援担当者」を決定。担当者としてそれをアシストする支援者が中心となり、個々の集団支援を立案している。実際の支援においては、活動がスムーズに進行できるように、非常勤職員も含め、全職員が現場の状況や変化に機敏に反応できている。 ○社員とアルバイトで考えている。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	12		「週末」は保護者のニーズが高い「施設外活動（お出かけ行事）」と「おやつづくり」を交互に実施。「平日」は「オーナメント」「カレンダー」など「制作系定着活動」をベースに、「運動系」「レクリエーション系」「学習支援」などの活動をバランスよく設定している。 ○新しいものを増やして、楽しめるようにしている。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	10	1	前月に企画した「集団支援予定表」に沿って、日々の課題を確認しながら、支援を進めている。休日と長期休暇は、平日の支援内容に加え、個々の学校課題に時間をかけて対応。平日の学習支援で十分に支援が行き届かない学習内容を確認したり、「日記」「工作」のような長期休暇独自の課題を深めることもある。 ○季節や休みに応じて、対応済み。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか	10	1	入室直後、トイレ休憩後に個別の「学習支援（学校の宿題）」を済ませた後、おやつ、ウォームアップの「ルーティン活動（エクササイズ&ダンシング、頭の体操）」と一連の流れが習慣化している。「集団支援」は「レギュラー活動」と「イベント活動」に大別されるが、毎回の利用者の状況をもとに、より適切な支援内容を提供している。一方、開所3年目を迎え、個々の利用者のストレンクス、保護者のニーズがかなりはっきりし、それが「個別支援計画」に具体的に落とし込まれていることを考慮すると、今後は「個別支援」の充実を図る必要があるとも感じている。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	9	4	担当者がホワイトボードに、当日の「支援内容」「支援目標」「支援の流れ」を毎回掲示している。「施設外活動」においては、「送迎車内」の「職員と利用者配置」について、事前にホワイトボードに例示。ときおり、当日の利用者の状況による留意点も確認しながら、安全上、最大の配慮をしている。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	6	5	支援終了後は送迎の関係で、職員全員による打ち合わせは難しい。とくに担当者が、次回の支援の改善に向け、成果と課題をまとめるように努めている。 ○HUG（連絡帳&日報）の記録で共有している。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	8	3	LINE、HUG、ブログを活用した日々の支援記録を職員間で共有している。主な集団支援については、児発管が前述の「特性確認シート（Ⅰ～Ⅲ）」を踏まえながら、活動中の個々の興味関心、意欲や能力の高まりなどを、ノートに記録。アセスメントの折りは、保護者に適宜紹介するとともに、質疑応答などをもとに、「個別支援計画」を練り直している。 ○HUG（連絡帳）の記録で共有している。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	11	1	保護者の意向を尊重しながら、ほとんどの利用者は「6か月に1回」のモニタリングを実施している。要新月を迎える利用者が多い月は、保護者のご了解を得て、モニタリング時期を前後させるなど、全利用者のモニタリングの質を確保するために万全を期している。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っているか	10	2	モニタリングの際、施設が提供する主な「基本活動」について毎回紹介している。保護者から新たなニーズが出る場合もあるが、個々の意欲や能力の高まりを、他の活動に転化することは難しい場合もあり、基本活動を組み合わせた支援はなかなか進められていない。
	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	9	3	各職員の目（＝見識）で日々子どもの状況を把握し、支援を進めているが、職員間には知識と経験のちがいが少なからずあり、最もふさわしい者が常に参画できているとは限らない。
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか	9	2	保護者を通じて、各学校の「月間予定表」「学校だより」などをいただいている。利用に際しては、送迎担当者を通じ、利用者のその日の状況を細かく連絡をいただくことも多い。とくに体調不良や怪我等については、その都度適切な連絡や対応をしていただき、当日の支援や指導の一助としている。 ○送迎時などに様子を伝えている。トラブルは発生時は学校への電話連絡を行っている。 ○対応がしっかりできている。
	22	医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えているか	3	8	令和5年現在、医療ケアを必要とする利用者が在籍しておらず、連絡体制は確立していない。受け入れる場合は、現在の利用者の状況も鑑み、保護者のご意向を汲んで、適切な連絡体制を整えたい。 *対象の方はいないが、必要が出た場合は、体制を整えていく。

関係機関や保護者との連携	23	就学前に利用していた保育園や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	9	3	今春に小学校入学を迎え、児童発達支援から放課後等デイサービスに移行した利用者は2名いるが、個々の就学前の園との情報共有は、それを機に途切れている。一方、ある利用者の相談支援事業所は、更新前はもちろん、折々に利用者の状況把握のための電話連絡と来訪があり、来訪当日はその日の実態はもちろん、日常的な実態を交えた情報共有ができています。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	9	3	令和5年現在、利用者に卒業実績がない。卒業を視野に入れ、「モニタリング」から「個別支援計画」に至る過程はもちろん、日常的な支援記録を充実させ、有益な情報提供に寄与したい。	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	7	4	1	相談支援事業所を中心に、電話や来訪による助言を定期的にいただいている。とりわけ、複数の利用者を担当していただいているいくつかの事業所からは、参考となるご意見やご指摘をいただくことが多く、「個別支援計画」を立てる際の確かな情報源としている。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	2	1	9	機会がない。コロナを取り巻く状況は大きく変わったが、保護者のニーズ等を考慮すると、今のところ、積極的な交流は考えていない。 ○屋外活動において、交流する機会を設けている。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか	2	3	7	参加できていない。機会をとらえ、参加を検討したい。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	10	2		利用日には HUG、LINE を通じ、写真とコメントによる利用状況を提供。利用者のよさと課題について共通理解を図っている。さらに、折々にブログを更新し、事業所としての支援の状況をありのままに伝え、利用者の保護者はもちろん、折々には利用を希望する保護者や一般の読者からの反響も感じている。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	6	5	1	十分にできているとはいえず、保護者からも実施を希望する声を聞くことがある。アセスメントの際は、現在の保護者の育児や悩みを確認しながら、事業所内における具体的な事例も交え、よりよい支援の仕方を共に考えている。
保護者への説明等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	10	2		利用希望者には原則「無料体験プレ教室」で事業所や他利用者の雰囲気を感じていただき、ご利用を検討していただいている。アセスメント後は、事業所運営については「サービス管理責任者」が、支援内容については「児童発達支援管理責任者」がそれぞれ詳細に説明。十分にご理解をいただいた上で、ご利用をお願いしている。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	11	1		事業所として、すべての保護者とLINEによる相談体制が確立。電話やメールによる相談にも適宜対応。折々の保護者の声をできるだけ吸い上げられるように努めている。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	3	1	8	土日開所を実施しているため、父母の会の時間を捻出することは難しい状況にある。保護者の声を集約するプラットフォームとして、Zoomなどを適宜活用することを検討したい。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	10	1	1	利用時のトラブル等は必ず保護者にその経緯と対応を伝えている。今年度は「ヒヤリハット」にまとめた事例はもちろん、新規利用者に伴う利用者間のトラブル等も多く、児童管は後々の責任(説明責任&結果責任)を心がけ、そうした事例を毎回記録。アセスメント等で保護者から説明を求められた際は、誠実に対応している。 △保護者、子どもからの苦情について解決がされていないため、子どもから時々悩みを聞いています。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	9		2	「リタリコナビ」によるブログ発信は、利用者とその保護者からの好評を博すとともに、新規利用希望者には、それを事業所選択の一つの理由に上げている保護者も多い。個々のアセスメントやモニタリングの際は、話し合いを進める題材となることも多く、職員間では支援内容のフィードバックの一助にもなっている。
	35	個人情報に十分注意しているか	10	2		保護者連絡のための写真撮影、および、文書作成はすべて社内スマホ、もしくは、社内パソコンで行っている。折々のミーティングでは、「守秘義務」への喚起をするとともに、書類については、管理はもちろん、書類の施錠の管理に至るまで、万全を期している。
	36	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	10	2		他利用者とのトラブル等で気持ちが昂ったり、思うようにならないことがあり、落ちつかない利用者がいた場合、部屋を改めるようにしている。一方、そうした状況に対する職員間の受け止め方は千差万別であり、また、職員の言動がそうした状況の誘因になっている場合もあり、支援や伝達に対する配慮の大切さを痛感している。
37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	6	1	5	以前、近隣の「こども園」から来室している利用者があり、そこに勤務する職員のみならず笑顔であいさつを交わすなど、地道な交流ができていたが、年度が替わって以降、地域とのふれあいの場はほとんど持っていない。	

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	7	3	2	令和5年は晩夏以降、施設内でインフルエンザが時間差で流行し、保護者の感染症への問い合わせが増加。わが子が「感染源」にならないように、早目の欠席を決められる保護者もあった。一方、園や学校のインフルエンザの状況と家庭の事情から、「感染症対応マニュアル」を希望された保護者もあり、その声も反映したマニュアルを策定。職員と保護者に周知することができた。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	9	2	1	月1回の「SST」で、「火災」「地震」「水害」に対応した「避難訓練」を実施。令和5年は「避難経路に潜む危険」「避難所生活の様子」なども、映像やクイズで確認。より幅広い避難学習が実施できた。今後は訓練を通じ、生命の大切さ等にも切り込んでいきたい。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	8	4		管理者を中心に、リタリコナビの「オンライン虐待防止講座」に計画的に参加。その内容を職員間で共有し、その後の研修の基礎としている。事業所の事例研は十分とはいえないが、折々の利用者への言動で気にかかることがあれば、相互に確認し合っている。
	40	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか	8	4		服薬等の支援は、来所時に薬を一括管理。昼食前に「担当者」から、「服薬支援」「服薬完了の見届け」を、口頭と連絡黒板で全体確認。服薬を確実にしている。既往症等については、アセスメントシートにその経緯を確実に記載し、カンファレンスで折りに触れて確認。毎回のアセスメントで保護者にヒアリングを行い、必要な情報は職員間で共通理解している。 *動画視聴している。
	41	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	8	4		管理者を中心に、リタリコナビの「オンライン虐待防止講座」に計画的に参加。その内容を職員間で共有し、その後の研修の基礎としている。事業所の事例研は十分とはいえないが、折々の利用者への言動で気にかかることがあれば、相互に確認し合っている。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	9	3		今のところ、身体拘束を伴う対応を迫られる事例がなく、細かな基準までは設定できていない。今後、職員個々の勝手な判断が先行しないように、管理者の原案の下、職員間で検討していきたい。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	11	1		毎回のアセスメントで得た「食物アレルギー」「食習慣」に関する情報は確実に更新し、共有。何らかの変化があった場合は、保護者に問い合わせ、以降の支援への言質をいただいている。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	11	1		令和5年は「事故・事件報告書（事業所→岐阜市）」が2件。内1件は救急搬送を伴う事例であり、施設としては、その前後の支援や対応について問われた。そうした経緯を受け、その後は「予防的観点」から、児発言が自身の気になる事例はできるだけ「ヒヤリハット」に上げ、事業所内で共有している。しかし、情報共有はするものの、「類似事例」が起こることがあり、職員間の「危機意識」の温度差は少なからずあると感じる。 *文書は一読後、サイン。職員全員に情報が行き渡っている。